



分巻
続
巻

2503



114
A 4156

大正十一年四月
大正十一年四月

肥前國佐井郡長湫府

元康通事 治平者

與方次平在事

當時

河部真造と改名

苗中口接外歳



先祖自方八郎之傳と有肥前相浦郡と同國

長湫の引越以來代々唐通事と相勤新永徳元年以後

分外ノ願志有之勤學修己仕得在素分忠義ノ性得之与

成熟不仕却而放居相働大備之有以有株武候才之儀

近傍浦上村に潛居仕村役と傳仕以内地隊組家 作出得

身極微弱有 市販有欲多欲作此等仕存立以保年來
素志、相止不中、以何事 國家、市為勸相之為掛
存立以受、打節

小森市殿 市家臣、田井、子、區物と、人、と、意、を、仕、以、り
浦と村全村、那、蘇、家、門、信、仰、し、一、不、容、易、に、依、り、付、候、一、矣、我、を
極、め、防、方、し、子、御、を、侍、以、り、

國家、市、為、市、相、成、有、同、人、に、可、作、行、種、く、子、と、ら、し、
去、り、廣、敷、之、卯、二、月、卯、く、長、崎、天、主、堂、教、作、部、金、小、使、に

入、込、候、隨、信、し、一、月、客、一、情、我、處、貴、奸、累、仕、總、為、
具、に、探、索、仕、昨、春、櫻、濱、表、教、作、部、金、に、奉、り、精、勇、情、を
探、り、付、上、心、違、に

神道、市、同、業、金、市、所、度、以、り、る、を、交、事、に、も、為、り、作、事、と、確、し、
愚、見、仕、且、候、と、壓、抑、仕、以、り、

神道、市、同、業、金、市、所、度、以、り、故、出、府、建、事、仕、方、外、事、に、奉、り、
出、館、候、再、三、及、談、及、付、候、何、も、承、り、不、仕、以、り、昨、十、七、日
同、而、脱、走、仕、別、紙、に、報、達、向、仕、以、候、市、所、度、以、精、要、細、し、

吊死... 汝身具... 吊... 奉... 申... 上... 作... 付... 原... 身... 分... 及... 續... 書

相... 吊... 奉... 申... 上... 作... 何... 卒

吊... 慈... 悲... 心... 吊... 沙... 活... 偏... 奉... 願... 上... 作... 以... 上

甲
正月十八日

河... 部... 志... 造



編書

114
A 4156

大正十一年四月



在者 顧分相與象味 一清見之 涉度作時多唯傲忠 一心

養育を不顧 救う事 同丹誠を凝 探索仕 作

一依之 何分難黙心奉存 上作 付不奉顧 思身命を捧仕

顔を犯 と言上仕 以為 今日出府仕 作然 向去文中 不致

條 多く 涉度作時 其 文 向

朝政を批議仕 以 沢 小 金 涉度 只 傲志 之 切 不 致 其 身 不 圖 詔 物

烈々 相 威 威 之 事 之 不 奈 詔 物

皇恩之 事 之 相 儀 之 作 事 之 時 涉 建 言 一 單 案 相 認 再 讀

仕の心して不計不致し諸之有りと相顯は實以不堪忌憚聞
再業可仕ふこと思考り仕はは彼竊

朝政を卷議仕は者或ハ詩を賦し狂歌を他りて時勢を玩弄

仕は歎ありハ狂勝歌をくくと自慙し心を生し且邦有道

危言危行とく聖語も有く素より剛雅なき田舎者

愚直と被為

師汲分

師嘗人恤之思召を以 御取上テ下被伏し奉誓上作

猶又在之月ハ不幸遂

上同し作月流布は作向ふ思多事事情書載仕並ハ同

在思討之候 師並奉誓上作たは得る事あり

朝典を僭議して思業を之在存しを貪り以勢し不存為

毛頭無所座は得る文を化し等々玉向前他見を經り理也

訂校多文ハの候も憚り以款に付願随憶懐く文意も不才

作得る在事しハ内情裁重し也

師明家公為 威下作根重き奉願上作也

堂上之 淨世法 官負淨穢勢、而等不於業、

之賤民、淨世法得志美事、不都合、淨世法偏奉蒙

御恩免為是又伏与奉希上作隨与許証箱、投入仕此

成ハ長濟府ハ_二出仕依本ハ_一助ハ_二心濟作得_一在在_二中_一

作通 淨世法之言上仕及志願殊更西洋女師、

一條昨今之義擲、淨世法取組決定、淨世法相成ハ_二心濟_一

之仕合且貧生、淨世法旅費、淨世法手荷_二荷_一、淨世法以_二義_一

唯激志、淨世法一途ト蒙

淨館之 淨仁風を慕ハ上書仕ハ同何分

御哀憐之 淨上_二方_一宣

淨裁量上下並度謹与奉願上作恐惶致白

申
正月

阿部真造





